

灯 (あかり)

玉之浦小中学校だより
第 21 号
令和5年2月28日



逃げ月の2月が、慌ただしいまま終わります。2月3日(金)、今年も7段のお雛様を玄関に飾りました。昨年、小物が多くて苦労したのですが、写真を見ながら行った今年も、なぜか大変でした。早速子どもたちが足を止めて、「お雛様だあ〜」…この声を聞くだけでも、飾った甲斐がありました。

授業参観・学級PTA

部活動説明会・学校保健委員会も開催

2月24日(金)午後、今年度最後の授業参観と学年学級PTA、部活動説明会、学校保健委員会を開催しました。学年学級PTAは、学年ごとに時間をずらしながら授業参観と並行して行いました。どうしても割当の時間が短くなってしまうりましたが、今年度

の各学級の活動の振り返りや、学年によっては次年度への引継ぎに關わる内容なども話し合われました。授業参観では教科の授業や、学習発表会などを参観していただきました。

この日は、学校保健委員会も開催しました。今年度初めての対面での委員会であり、子どもたちの健康に關わる情報の共有や、「メディアアコント

部活動説明会

16時から出席者全員に体育館に集まっていたいただき、部活動説明会を行いました。その内容は：

- ①今後の中体連関係大会への地域スポーツ団体の参加に關わること
- ②R5以降、全員部活動という表現をやめること
- ③R5以降の男子部活動について

①②：小5〜中3の子どもたちへの説明会を行い、文書や前号の学校だよりで、すでにお知らせしていた内容を確認しました。
③：男子生徒数が令和9年度をピークに毎年減少していく見込みなので、男子部活動の在り方について検討することにしました。6月、子どもたちと保護者にアンケート調査を行い、その結果を学校だよりで公表しました。またPTA理事会でも、様々な視点から審議していただきました。その結果、現時点で、ソフトテニス部か、希望が多かったバドミントン部という二者択一での解決は難しいと判断し、次のように対応することにしました。

ト調査を行い、その結果を学校だよりで公表しました。またPTA理事会でも、様々な視点から審議していただきました。その結果、現時点で、ソフトテニス部か、希望が多かったバドミントン部という二者択一での解決は難しいと判断し、次のように対応することにしました。

- ◎令和5年度、入部を希望する男子生徒は、ソフトテニスまたはバドミントンのどちらかを選択することが出来る。バドミントンの希望者がいた場合は、市中体連に登録し、中体連主催の大会に出場できるようにする。
- ◎令和6年度以降も、2種類の選択肢を維持する。将来的に男子生徒数が減少する中で、活動が維持できない判断をした時点で再検討を行う。

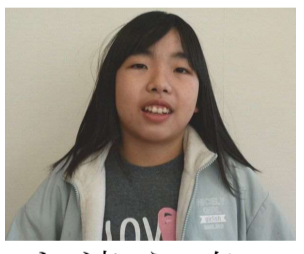
いつ頃から、どのような仕組みで、どの種目の地域スポーツ団体が中体連関係大会への出場を目指すのかは未定ですが、

条件整備が進んでいくことは間違いありません。また、このように部活動を取り巻く環境が変化していくことや、その生徒にとってより有意義な選択ができる環境づくりが必要と考え、本校では、令和5年度から全員部活動という表現を止めることにしました。ただし部活動を通して学ばせたいことがたくさんあるのので、学校としては加入を

お勧めします。また男子の部活動については、将来的には見直しの可能性を含みますが、選択肢が増えたと解釈することもできます。令和5年度から、これまでと異なる部活動の仕組みが動き出します。中心にあるのは、今いる生徒たち、将来の生徒たちのためという考えです。ご理解、ご協力をお願いいたします。

全国キャラバンメイ

作文の部 佳作 中山彩香さん



五島市長 寿介護課から、嬉しい連絡がありました。令和3年

度、長寿介護課の職員の方に来校していただき、「認知症キッズサポーター養成講座」を開催しました。認知症の方への接し方の心構えや、具体的な接し方を中心に学習しました。その時に書

【認知症サポーター】

認知症を正しく理解し、認知症の方やご家族を見守る応援者になる。その上で、自分ができることがあったら行動する人たちのことです。

学年別大会・南北大会予選

福江中の生徒と組んで出場しました。北

出口・川脇組が2位、和輝さんの組が3位。2年生の部の野崎・埴組はシ

2月25日(土)ソフトテニス協会主催の2つの大会が並行開催されました。2年生部門に野崎・埴組、1年生部門に出口・川脇組と、和輝さんが

風が強かったため、チェンジサイズのたびに状況が入れ替わり、風への対応力が試される難しい状況でした。

【結果】1年生の部は、柿泊運動公園(の出場権を、3組とも獲得することができました。



匠也さん

優斗さん

伊織さん

清悟さん

和輝さん

きました。

第18回五島列島小中学生短歌・俳句コンクール

五島文化協会が主催する標記のコンクールに生徒達の作品を応募していたところ、受賞の連絡がありました。

【俳句の部】

- 秀逸 ハチクマが夕日に映える大瀬崎 中1 出口清悟
- 佳作 バラモン凧上げの子供よすくすく育て 中2 埴 優斗
- 佳作 紅に白冬の椿は玉之浦 中2 林 真心

【短歌の部】

- 秀逸 うんまかよ祖父の新米ホカホカで 中3 川脇颯太
- 手伝いギバった甲斐があつとよ

4名の作品が秀逸と佳作を受賞しました。おめでとう。

今年度も俳句の取組の中で、たくさんの作品が生まれています。(短歌にも挑戦しました)一昨年、昨年と、生徒たちの作品をまとめた冊子を作成しました。今年度も、生徒たちへの最後のプレゼントとして、編集作業を進めているところです。卒業式に間に合うように完成を目指しています。お楽しみに!

よしなじごと

学校だより第19号で、スマホを孫に見せて叱られたじいじのことを書きました。1月30日(月)の長崎新聞に、このことに繋がるかもしれない記事を見つけました。

『「スマホ子守」悪影響も』と題した記事は、米シンガンの研究結果を基にしたものでした。「就学前の子どもで、親がスマホやタブレットを持たせる頻度が高いと、自分の感情を制御できなくなる傾向がみられた」「特に男の子や、もともと気分が変わりやすい子で、その傾向が強かった」「スマホを与えることが常態化することで、こうした傾向が強められている可能性がある」とのこと。スマホを与えると、簡単に「子守」：昔、よく聞いた言葉ですね。

あとがき

●新型コロナとインフルエンザについて：ご家庭でも適切な予防と対応を

●新型コロナについては、今後、対応が緩和されていく方向に動いていくこととなります。現在「学校対応レベル1」が示されており、この基準と状況に照らして、安全と学びの確保のために感